

仙台市障害者保健福祉計画に係る質的モニタリングの結果について

1. はじめに

- 平成 30 年 6 月 7 日の第 1 回開催において、障害者保健福祉計画等の取組状況に係る調査として、「障害者保健福祉計画の重点分野の 1 つである障害福祉分野で働く人材確保・定着の支援を進めるにあたり、事業所等のニーズ等の把握を行い、支援の手法を検討する。」としている。(参考資料 3 のとおり)
- その後の事務局での検討を踏まえ、障害福祉に関心のある学生の仕事に関する疑問や希望等のニーズ、障害福祉事業所で働く若手職員の仕事上のやりがいや悩み等をヒアリングする機会として、下記取り組みを実施した。

2. 概要

①『ココロン☆ワーク スペシャル』開催に向けた意見交換会

日時：9 月 13 日（木）16：00～18：00

場所：市役所内会議室

参加：大学 4 年生 5 名、事業所若手職員 4 名（本協議会委員からのご紹介）

内容：どんな交流会であれば人材確保定着に繋がるかの意見交換を行った。

結果：職場の雰囲気や残業の有無、休暇の取得などの話題が多く出たことから、進路の決定や仕事をしていく中で、仕事以外のライフスタイルに関する部分への関心が高いことが分かった。本内容を、ココロン☆ワーク スペシャルの企画内容に反映した。

②『ココロン☆ワーク スペシャル』

日時：10 月 24 日（水）16：00～18：00

場所：エル・パーク仙台ギャラリーホール

参加：50 名 大学生（4 年生 7 名、3 年生 6 名、2 年生 7 名） 21 名

障害福祉事業所若手職員 14 名

仙台市障害者施策推進協議会委員 9 名

仙台市障害企画課職員 6 名

内容と結果：資料 3-2 のとおり

上記のうち、②について、仙台市障害保健福祉計画における質的モニタリングとして位置付け、本協議会委員に参加いただいた。

3. 今後の取組み

関係各所へのヒアリングの結果、各障害福祉事業所が人材確保に取り組んでいる一方、学校においては、「求人時期を、他業種と同じ 3 月頃に前倒しできると学生の検討に入りやすい。」「求人票の書き方など、より学生の興味関心に沿った改善ができれば、学生への訴求力も上がり、人材確保につながるのではないか。」と感じている点がある事が分かった。

このことを踏まえ、平成 30 年度は、障害福祉事業所・学校・学生全てにとってメリットがある取組みとして、「今どきの学生の現状や、それを踏まえた効果的な求人方法」を市内の多数の障害福祉事業所に共有する研修会の開催を検討している。